

核医学（RI）検査とは？

核医学検査は、微量の放射性医薬品を体内に投与し、その医薬品が特定の臓器や組織に集まる様子を特殊なカメラ（ガンマカメラ）で撮影する検査です。

○大きなメリット：「機能」や「代謝」が分かる

CT や MRI 検査が「形（構造）」をとらえるのに対し、核医学検査は「機能情報」や「代謝情報」を画像化できる点が大きな特徴です。臓器の血流状態、細胞の活動性などを評価できるため、病気の早期発見や病態の正確な把握、治療効果の判定に非常に役立ちます。

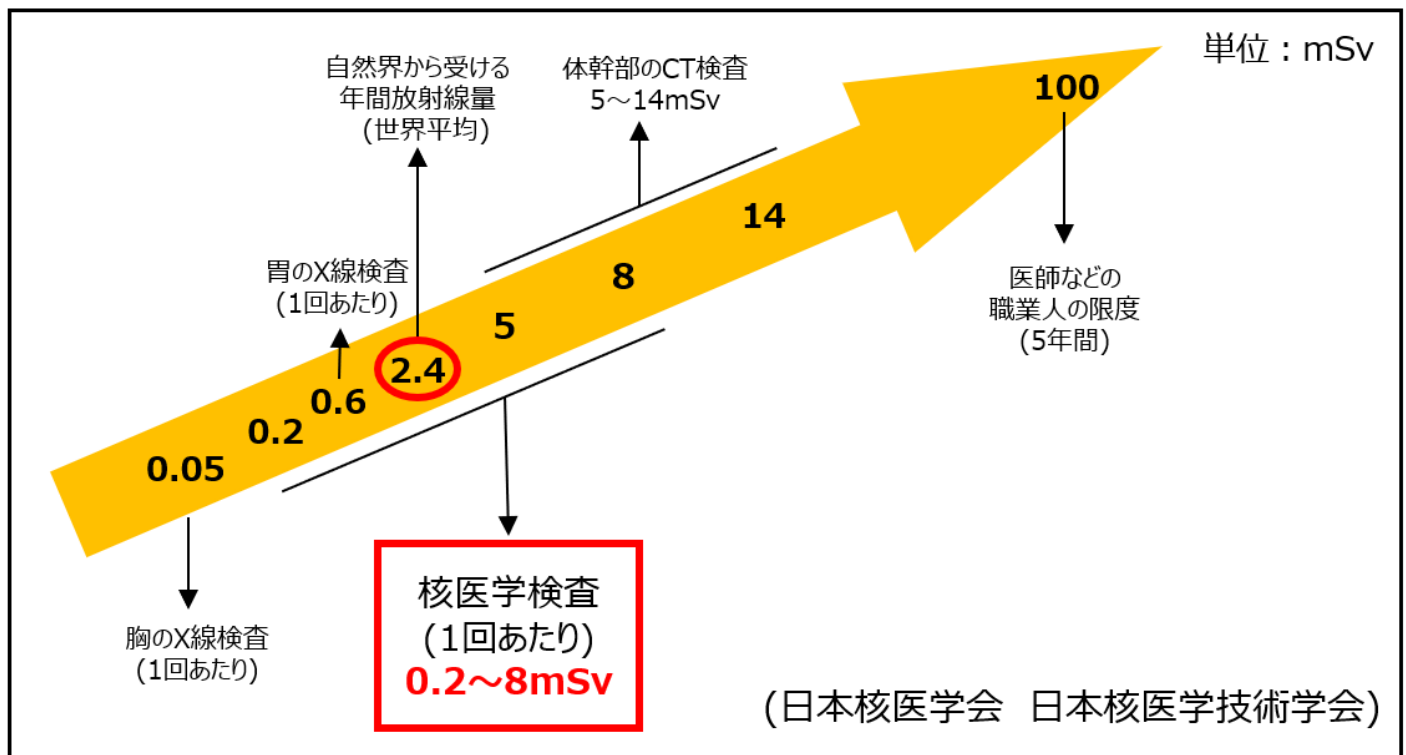
○デメリットと安全性について（被ばくについて）

放射線医薬品を使用するため、わずかな放射性被ばくがあります。しかし、使用する薬の量はごく微量であり、受ける被ばく線量は一般的な X 線 CT 検査と同等かそれ以下です。

また、投与されたお薬は「時間の経過とともに放射能が自然に弱まること」と「尿などから体外に排出されること」のダブルの効果で速やかに減少するため、体内に長く留まることはありません。

○安心してお受けいただくために

私たちは患者さんの安全を最優先に考え、主治医と連携のもと、検査の必要性が被ばくのリスクを十分に上回ると判断された場合にのみ、最小限の線量で検査を行っています。



当院の核医学（RI）装置



Discovery NM630

脳血流検査

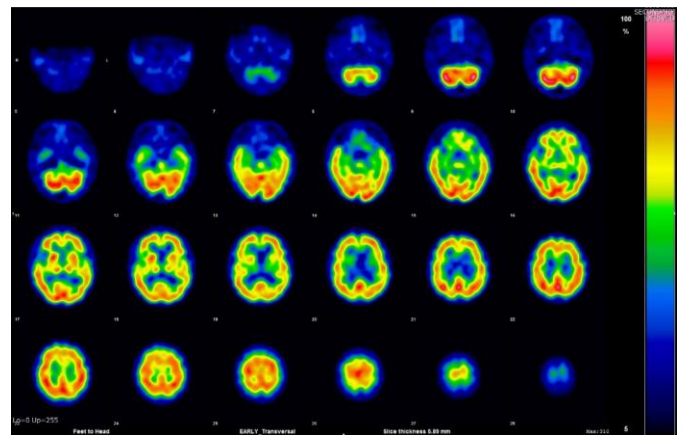
脳の血管を流れる血液の量を画像化し、脳の働き（機能を詳しく調べる検査です。

○検査の目的

主に脳梗塞、認知症、てんかんなどの診断や、病気の状態を詳しく評価するために行います。

○この検査でわかること

脳のどの部分の血流が低下しているか（あるいは過剰に増えているか）を、色鮮やかな画像で視覚的に確認できます。これにより、病気の原因、重症度を正確に把握することができます。



脳血流イメージング

骨シンチグラフィ

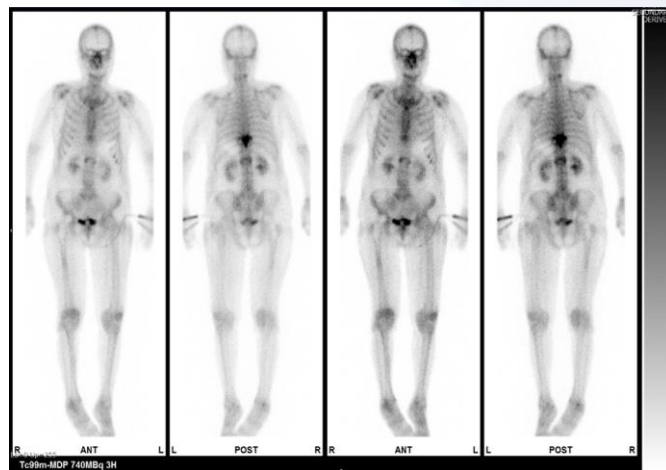
全身の骨の「状態」や「活動性（代謝）」を画像化し、骨の病変を詳しく調べる検査です。

○検査の目的

骨折、骨腫瘍、がんの骨転移、骨の炎症性疾患など、さまざまな骨の病変を検出するために行います。

○この検査の強み

通常のX線（レントゲン）検査は骨の「形」の変化を見ますが、骨シンチグラフィは骨の「細胞の活動」を見ます。そのため、X線検査でははっきりと映らないようなごく小さな病変や、全身に広がっている病変を、早い段階で見つけることができます。



骨代謝イメージング

DAT スキャン

脳の中にある「ドパミン」という物質を運ぶ神経（ドパミン神経）の状態を画像化する検査です。

○検査の目的

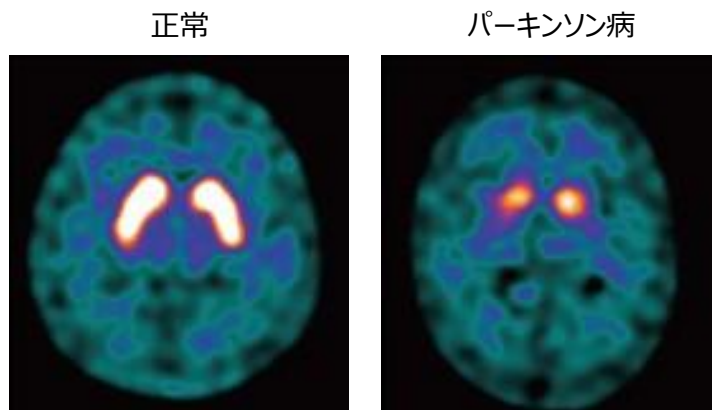
主にパーキンソン病やレビー小体型認知症の早期診断、および似たような症状を持つ他の病気との見分け（鑑別診断）を行うために有効な検査です。

○この検査でわかること

手足の震えや動きにくさなどの原因となる、脳内のドパミン神経の「変形（傷み具合）」や「減少」の程度を視覚的に確認できます。

○この検査の強み

これまでのCT検査やMRI検査だけでは区別が難しかった「脳の神経の細かい変化」をとらえることができるため、早期に正しい診断を下し、患者さんに合った適切な治療をいち早く始めることに繋がります。



ドパミントランスポーターイメージング